

(3) やけど

子供の皮膚はとても柔らかく、熱い飲み物や食べ物でも大きなやけどをしてしまうことがあります。

食卓にテーブルクロスをしている場合、子供がテーブルクロスの端を引っ張り、熱い物が落ちてきてやけどをするのはよくある例です。

小さなお子さんがいる家庭ではテーブルクロスをかけないほうがいいでしょう。冬場の暖房器具でのやけども多い事故のひとつです。子供が直接さわらないように囲いをしたり、やけどの危険があるものは、子供の手が届かない場所に置きましょう。

また、電気のコンセントの中にもものを入れたり、コードを口に入れたりすると、感電したり口の中をやけどしたりするので、コンセントキャップをするなど、物をつっこまないようにしておきましょう。

さらに、電気毛布、電気カーペットを長時間肌にあてたままにすると低温やけどをすることがあります。タオルなどを使って直接体に触れないようにし、寝る前にはスイッチを切ったほうがよいでしょう。

医療機関救急受診のポイント

(救急外来を受診しましょう)

- ▶ やけどをしたところが水ぶくれになっている
- ▶ やけどをしたところが青白くなっている
- ▶ やけどをしたところが黒くこげている
- ▶ やけどの範囲が広い（子供の手のひらより広い）
- ▶ 顔面のやけど

家庭での対処方法のポイント（Q & A）

Q 1 やけどをしたときの応急処置は？

- 1 すぐに流水でよく冷やす（20分くらいが目安）

あまり強く水をださないように注意してください

- 2 水ぶくれになった所はやぶらないようにガーゼでおおう
- 3 やけどが耳や目の場合

水を直接かけずに冷たいタオルをこまめに取り替えながら冷やす

- 4 民間療法はしない（アロエや味噌をぬったりしない）



Q 2 やけどの水ぶくれは破らないほうがいいのは何故ですか

水ぶくれの中は無菌状態ですが、水ぶくれを破るとそこから菌が入って化膿するおそれがあるからです。

もし、水ぶくれを破った時は、消毒をしてください。

Q3 感電したときの応急処置は？

- 1 屋内で子供が感電したときはブレーカーを下ろして電源を切る
- 2 やけどをしている部分はすぐに流水で冷やす
- 3 ふるえ、けいれんがある場合は毛布などにくるんで温かくし、すぐに救急車を呼ぶ
- 4 子供の名前を呼んでも反応がない（意識がない）ときは、人工呼吸や心臓マッサージを行い、すぐに救急車を呼ぶ
- 5 ふるえやけいれんがすぐに治まり、やけどもなく意識もはっきりしている場合は、それほど心配はありませんが、念のために医療機関を受診してください

